

いるが、土器の大きさに合う土坑から「土器を何度も出し入れするために一時的に納めておく土坑」と、性格付けを行っている（八木澤2000）。

しかし、上野原遺跡の壺形土器の埋められている場所は、遺跡の中では高所の最良の選地であり、土器を火で焚く祭祀的儀礼の後、その土器を地中に奉納する祭祀を行った場合は別の考え方になる。上野原遺跡では、11基12個体の壺形土器が、天道ヶ尾式土器期に5個体、次の平椀A・B式土器期に3基4個体、平椀C式土器期に3個体の3時期に埋める行為が継続的にあったことを示している。そのことは、前段階の儀礼的行為を尊重したものであり、二度と土器は取り出すものではないことを示唆していると考えられる。

このことから、壺形土器は祭祀的儀礼の行為で火で焚かれ、祭祀的儀礼の行為で完全に埋められたことが考えられる。このようなことから3遺跡の埋められた壺形土器を観察すると、壺形土器は精神的な祭祀的行為で埋められたものであり、地中に「埋設」されたものと考えている。

5 おわりに

最近の発掘調査の縄文時代草創期から早期の成果をみると、日本列島の最南端の南九州には上野原遺跡のような独特で先進的な様相をもつ縄文文化が最初に登場したといっても過言ではない状況にある。そして、これまでの日本の縄文文化観の枠組みでは理解できない縄文文化が存在しているようである。ここで取り扱った壺形土器の出現と埋設壺形土器の存在もその一つである。今後は、あらゆる角度から縄文時代早期頃の南九州の特異性を抽出し、一つ一つ深く追求する作業を行い、南九州の縄文文化の解明に迫りたい。

【 註 】

- 1 椀ノ原式土器は、塞ノ神式土器を再考した段階で設定した型式名である（新東1989）。これまでの塞ノ神式土器を二系統に分離し、貝殻文系の塞ノ神様式に三代寺式→塞ノ神式→鍋谷式土器をおき、燃糸文系の平椀様式に平椀式土器→石坂上式→椀ノ原式土器を位置付けたものである。椀ノ原式土器は河口貞徳の塞ノ神A式土器に該当する。
- 2 埋納と埋設は厳密に意味が異なり、精神的な行為によっても区別されなければならない。
- 3 城ヶ尾遺跡は現在鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書作成中のため、これまで発表された資料で検討した。
- 4 石坂上式土器は、註1の燃糸文系の平椀様式に該当する。

【参考文献】

- 河口 貞徳 1972「塞ノ神式土器」『鹿児島考古』第6号
 鹿児島県教育委員会 1976「花ノ木遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（1）
 安田 喜憲 1980『環境考古学事始』日本放送出版協会
 河口 貞徳 1982「縄文草創期の貯蔵穴」『季刊考古学』創刊号
 米倉 秀紀 1984「縄文時代早期の生業と集団行動」『文学部論叢』

第3号

- 新東 晃一 1989「塞ノ神・平椀式土器様式」『縄文土器大観』草創期・早期・前期 I 小学館
 松舟 博満 1990「手向山式土器の壺について」『肥後考古』第7号
 新東 晃一 1990「縄文早期の壺形土器」『南九州縄文通信』No.4
 福永 裕暁 1995「石器組成からみた南九州縄文早期後半の壺形土器出土遺跡」『古文化論叢』第34集
 児玉健一郎 1998「城ヶ尾遺跡の塞ノ神式土器」『鹿児島県考古学海研究発表資料—平成10年度秋季大会—』
 八木澤一郎 2000「上野原遺跡10地点（3）土器埋納遺構 小結」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（27）

出土地名表引用文献

- 【鹿児島県関係】
 1 鹿児島県教育委員会 1980「石峰遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（12）
 2 鹿児島県教育委員会 1981「中尾田遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（15）
 3 鹿児島立埋文センター 1993「星塚遺跡」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（7）
 4 鹿児島県教育委員会 1990「前畑遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（52）
 5 鹿児島立埋文センター 1993「飯盛ヶ丘遺跡」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（3）
 6 鹿児島立埋文センター 1993「榎崎B遺跡」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（4）
 7 志布志町教育委員会 1979「別府（石踊）遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』（2）
 8 志布志町教育委員会 1992「下田遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』（22）
 9 河口貞徳 1972「塞ノ神式土器」『鹿児島考古』第6号 鹿児島県考古学会
 10 鹿児島立埋文センター 2000「上野原遺跡10地点」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（27）
 11 鹿児島立埋文センター 2001「上野原遺跡10地点」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（28）
 12 鹿児島立埋文センター 2002「上野原遺跡2・3地点」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（41）
 13 児玉健一郎 1998「城ヶ尾遺跡の塞ノ神式土器」『鹿児島県考古学会研究発表資料—平成10年度秋季—』
 14 鹿児島立埋文センター 2001「横井竹ノ山遺跡」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（43）
 15 河口貞徳 1989「型式不明の土器」『知覧文化』第26号
 16 吹上町教育委員会 1990「塚ノ越遺跡他」『吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書』（4）
 17 樋脇町教育委員会 1999「小市原遺跡」『樋脇町埋蔵文化財発掘調査報告書』（2）
 18 鹿児島立埋文センター 2002「出水平遺跡」『鹿児島立埋文センター発掘調査報告書』（28）
 19 吉松町教育委員会 1999「石打・七ツ谷遺跡」『吉松町埋蔵文化財発掘調査報告書』（4）
 20 松山町教育委員会 1990「香ノ田遺跡」『松山町埋蔵文化財発掘調査報告書』（5）
 21 未発表資料。現在整理中であり、平椀式土器に該当する。

【宮崎県関係】

- 22 宮崎県教育委員会 1997「天神河内第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財発掘調査報告書』第2集
 23 宮崎県教育委員会 2000「白ヶ野第3遺跡B地区」『宮崎県埋蔵文化財発掘調査報告書』第25集
 24 宮崎県教育委員会 2002「白ヶ野第2・第3遺跡」『宮崎県埋蔵